

学校運営協議会 議事録

校名	大阪府立八尾支援学校
校長名	古川 綾子
准校長名	坂田 享介

開催日時	令和 7 年 7 月 8 日 (火) 10:00 ~ 11:40
開催場所	本校 校長室
出席者(委員) 数	5名
出席者(学校) 数	13名
傍聴者	なし
資料	第1回次第、名簿、実施要項、令和6年度卒業生進路状況調査票、令和7年度使用教科用図書一覧表、各学部授業アンケート、令和7年度学校経営計画
備考	

議題等(次第順)
○ 開式の辞 ○ 校長挨拶 ○ 学校運営協議会実施要項【説明】 ○ 報告 ・ 令和7年度 学校経営計画 ・ 各学部の状況 ・ 令和6年度 卒業生の進路状況 ・ 令和7年度使用教科用図書の選定について ○ 1学期授業アンケート結果について ○ 質疑応答 ○ その他 ○ 准校長挨拶 ○ 閉式の辞

協議内容・承認事項等（意見の概要）

●校長挨拶

（１）全特長の報告

- ・特別支援教育を必要とする児童生徒は10年間で2倍になっている。
- ・中でも知的障がいの子どもの数が右肩上がり。地域の支援学級在籍児童生徒も増えている。
- ・去年は500件を超える来校相談、地域支援、研修など。ニーズの高まりを感じている。

（２）GIGAスクールの取り組みも進んでいる。

- ・1人1台端末、タブレット、電子黒板の活用など。

（３）教職員端末が無線化。

- ・会議は端末持参、メール会議などを進めている。
→時間外勤務も減っている。働きやすい環境で教員が力を発揮できるように。

（４）水野教育長に小学部の雨漏りやプレハブ棟の現状を視察いただいた。

- ・老朽化が進んでいた園芸倉庫などを解体し、通学バスやデイサービスの車両増加に対応するため、整備を進めている。今後も意見を教育庁に挙げていきたい。

●報告

【R7年度学校経営計画】

（校長）

- ・保護者と連携協力した訓練：1学期に引継ぎ訓練を実施し、改善点が明確になった。
- ・教員の休養室の設置など労働環境の改善に努めている。
- ・新校時による授業実施、専科の学部渡りによって教科学習の充実を図る。
- ・清掃活動など小中高の連携したキャリア教育の実践を行う。
校外学習をキャリア教育の観点を踏まえて整理する。
- ・自立活動のニーズ別班編成など工夫をしている。
中高合同チームでクラブ活動をしたい。
いずれは対外試合に参加できると生徒のモチベーションが高まるのでは。
- ・地域支援は本校の強みだが、八尾支援に行くといい支援をしてもらえると評判になり、入学児童生徒が増加している状況である。
地域支援は、地域の支援力の向上を目的としているので、本来の目的での地域支援をさらに推進する。

（准校長）

- ・生徒数減に伴い、シラバスを大幅に見直した。縦割り授業の実施。
- ・おそうじ手帳、清掃テキストを活用したキャリア教育の推進。
- ・将来の自立に向けた食育の推進。
- ・子どもたちの安心安全のための防災。マニュアルの更新や研修の活用など。
- ・人権教育を通して、子どもたちの自己肯定感を高めていきたい。
- ・とくに高等学校における支援教育のニーズが高まっている。地域での研修依頼増。

【各学部の状況】

（小学部）

- ・今年度の入学生は38名でかなり多い。（昨年度は28名）。小1に8人学級ができている。
- ・外国籍の児童の増加、新1年生は3名、昨年度2名の転入児も外国籍。工夫と対応を続けていく。

（中学部）

- ・昨年度比9名増。7クラスの新学年、ようやく落ち着きを見せてきた頃。
- ・新校時の40分、80分授業は教員が対応するのに時間がかかっている印象。
- ・クラブ活動が始まった。学年を越えた交流。長欠生がクラブを目的に登校できたりしている。

（高等部）

- ・在籍者数は61名と中学部の1学年とほぼ同じくらい。
- ・次年度は例年に比べてさらに少ない。教育相談申込者など地域の進学校検討者は通常の半数ほどである。
- ・八尾市の療育手帳取得者は東大阪市に比べて割合がとても高い。
1学年あたり対象者は80～100名ほどになるはずだが、高等部への進学者は少ない。
- ・縦割り授業が始まった。国数社理は6グループ、音美職業は4グループで運用している。
- ・日常の学校生活では日々の積み重ねが大切。実習になったら頑張るではうまくいかない。

【令和6年度卒業生の進路状況】

- ・ 中学部は各校区による、加えて受験で高等支援、高等専修学校に進学
- ・ 高等部、2名が企業就労、A型が3名（A型の報酬改定があり、事業縮小の傾向）
3年生はB型希望が多い。就労選択支援事業を活用していきたい。
1年生・2年生も活用することで進路選択の参考にしていきたい。

【令和7年度教科書選定について】

- ・ 小学部 低学年イラストの多いもの。中学年は文字の多いもの、高学年では星本が多くなってくる。
- ・ 中学部 それぞれの教科書を記載。国語☆4などを使用している。
☆の数によって難易度が上がる。今後は社会理科や職業にも星本を使用していく。
- ・ 高等部 ぐらしに役立つシリーズを使用。イラストも多く書かれているが内容は高度なもの。
イラストの多いものを使用している。保健体育、美術などは一般の書籍。
ビジネスマナーや情報モラルの教科書も使用している。

【1学期授業アンケート結果について】

（小学部 辰巳教頭）

- ・ 今年は2時間めが参観、3時間めは引継ぎ訓練。回収率はどの学年もかなり上がっている。
当日や締め切り前のリマインドのアナウンスが効果的であったか。
- ・ 肯定的な意見がほとんどだった。「思わない」と回答があったのは小6の一部のみ。
自由記述欄でも、感謝の意見や肯定的な意見が多かった。
クラスごとの参観を見たかったという意見が複数あった。班編成の意義をご理解いただきたい。
先生方が一人ひとりの個別の課題に応じた授業をしていることが保護者に評価されている。

（中学部・高等部 真田教頭）

- ・ 中学部は参加者が30%上がったがアンケート回収率は下がった。
高等部の回収率は上がった。回答期間は4～5日延期し、リマインドもマチコミで3回流した。
回答は参観日当日～翌日が一番多かった。夜間よりも午前回答が集中している。
- ・ 中学部は全学年クラス単位で特別活動でゲームをした。
クラスの雰囲気分かったという肯定的意見が多く見られた。
5月初旬にホームルーム教室で担任の様子を見ていただけたのがよかった。

●質疑および回答

- （1）危機管理体制、備蓄用品のチェックのサイクルはどうしているのか。
防災士の資格をもっている先生は何人いるのか気になった。
→備蓄チェックは分掌の役割にしている。
小中学部で防災士の資格を所有している教職員は2人把握している。
- （2）高卒の民間企業就労者のアフターケア状態はどうか
→卒業してから3年間フォローをしている。難しい方もいる。
必要に応じてケース会議を開催したりしている。定着率は8割くらい。
離職に至った場合、再就職のところまでフォローをしている。
事業所が合わない卒業生もいるので、学校HPに事業所紹介を掲載している。
- （3）居住地の小学校にも籍を置く。複次的な籍の導入をどう考えているか。
→支援学校は通学区域が校区によって定められている。決まりに基づいて進めていく。
- （4）A型B型を利用される方も多いだろうが、進路決定の時期は？
→高3生は夏休みの複数個所での実習を経て決定する。
10月の懇談で決まる家庭が多いが、年をまたぐ場合もある。生活介護とB型で悩むご家庭も多い。
就労選択事業も今年度から始まるので、早い段階でアセスメントを取っていく。

●准校長挨拶

- ・ 貴重な時間を頂き感謝している。
- ・ 今年度から赴任した。学校が変わるとこれほど課題が違うのかと実感している。
全職員で協力して子どもに対してベストな教育をしていきたい。
子どもに合っているか、ニーズに合っているか検討が必要。
なので、様々な視点から本校の教育活動についてご審議いただけるこの協議会はとても有益。
これらを反映しながらがんばっていききたい。

次回の会議日程

日程	令和7年 12月
会場	本校 図書室